

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 2 回情報教育研究委員会大学入試小委員会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 7 月 27 日(金)午前 8 時 30 分～午前 9 時 30 分

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 参加者：村井委員長、寛委員、植原委員、久野アドバイザー、辰己アドバイザー、家本アドバイザー
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 情報関連動向について

- ・ 理工系情報学科協議会の講演で、情報教育と教育の情報化が混同されているとの指摘があった。大学でのリテラシー教育、初等中等と高等教育の連結、現状は一つにつながっていない。その対策を提言してほしいということだった。全ての科目で情報をやるので専門科目は不要とのことだが、実態に則していない、各教科の中で情報利用に取り組むことに手を打つ必要があるのではないかと意見があった。
- ・ 短中期としては「模擬試験」が必要で、新しい学習指導要領への対応した入試が必要と考える。
- ・ 国の情報政策・教育分野の工程表では、教科販売のデジタル教科書、電子黒板、成績ソフトなどの予算中心。教育が入っていないことから 2012 年から調査を開始する学習指導要領の検討で工程表に入れ込むストーリーを検討してはどうか。教員のサポートや全ての教育に情報を含める検討が必要。
- ・ 入試については早急な実施が必要で、次の学習指導要領に対して各教科で行うことの実現・実体化を進めるべきではないか。教科書にも 1 割あてて、例えば、政治経済の入試には入っており、倫理リテラシー以外のデータ分析などソフトウェア的にその科目の問題を解くことの実施が希望される。教科ごとに指針を作成する必要がある、現状は情報機器の利活用しか入っていない。
- ・ 対策として、①入試、②各教科の対策。ただし、リテラシー・機器の利用と情報処理技術を使った問題発見能力の育成を混同せず、区別させることが必要。
- ・ 私情協では分野別のガイドラインを分野固有の活用能力としてまとめている。例えば、情報を選別する、統合する、分析・評価する、発信するなどの能力が必要とされている。
- ・ 大学版の分野別ガイドラインを初等中等局に縦でつなげる必要がある。教科は人間性を含めて役立つように設定しているが、他教科に役立つものではなくてはならないが現状はできていない。全ての教科での実施とリテラシーとしてまとめることが必要だが、高校で全てを対応することは難しく、小学校中学校での実施度をあげる必要があるのではないか。
- ・ 情報処理は、インターネットになり、データがあって、分析できる。自ら調べることが可能な時代でデータ分析能力が必要である。その前にデータを読み解く力必要で、情報には複眼的統合能力の学びが必要。
- ・ 問題発見解決については、問題をみつけさせると気付くことから、考えさせる力が必要。
- ・ データをどう使うのか、情報教育では数値を扱う、データを扱う力をもっていると大切さが理解される。キーワードは「世界一のデータ活用大国になろう」、世界レベルのオープンな基礎データができれば分析できる。データを使える時代で、どのデータ使い、何を導き裏付けにするか、データ処理能力、データ時代のメッセージとして情報活用教育が必要。データにファクトを入れる、問題・筋道・目的・思考が必要。大学教育で実際のデータを利用する基礎力として、他教科でも少しずつでも取り組む必要がある。大学入試でとりあげる取組みが必要とされる。

2. 大学入試への声明のとりまとめについて

- ・ 委員、アドバイザーで分担して下記項目別に案を作成することにした。メーリングリストを設定し、そこで意見交換を予定する。
- ・ 0) 本提案の守備範囲・趣旨、1) 入試関連、2) 全教科と情報教育、3) データ分析・科目統合的視点・データ処理活用、4) 情報倫理・リテラシー

V. 次回の予定

- ・ 次回小委員会は、メールで日程を調整することとした。